

ご存じですか？

肺炎球菌ワクチン

肺炎は高齢者の大敵です

このワクチンは肺炎球菌ワクチンによる感染症、特に肺炎の発症を予防するワクチンです。

「がん」「脳卒中」「心臓病」が日本人の3大死因であることはよく知られています。

では、日本人の死亡原因の第4位は？

実は『肺炎』なのです。

高齢者や持病のある方にとって、肺炎は現代でも恐ろしい病気です。そして、一般的な肺炎のうち、約4割が肺炎球菌によって起こると考えられています。

急速に症状が進んだ場合、特に高齢者の肺炎では、抗生物質などの治療が間に合わないことも少なくありません。

このため、流行性感冒の予防にインフルエンザワクチンが接種されるように、肺炎球菌による肺炎などの予防に肺炎球菌ワクチンが開発され、

接種できるようになっています。

次のような方に、ワクチン接種をお勧めします。

- ・高齢者（65歳以上の方）
- ・腎不全や肝機能障害のある方
- ・心臓や呼吸器に慢性疾患のある方
- ・糖尿病の方
- ・脾臓摘出などで脾機能不全のある方 など

◎予防

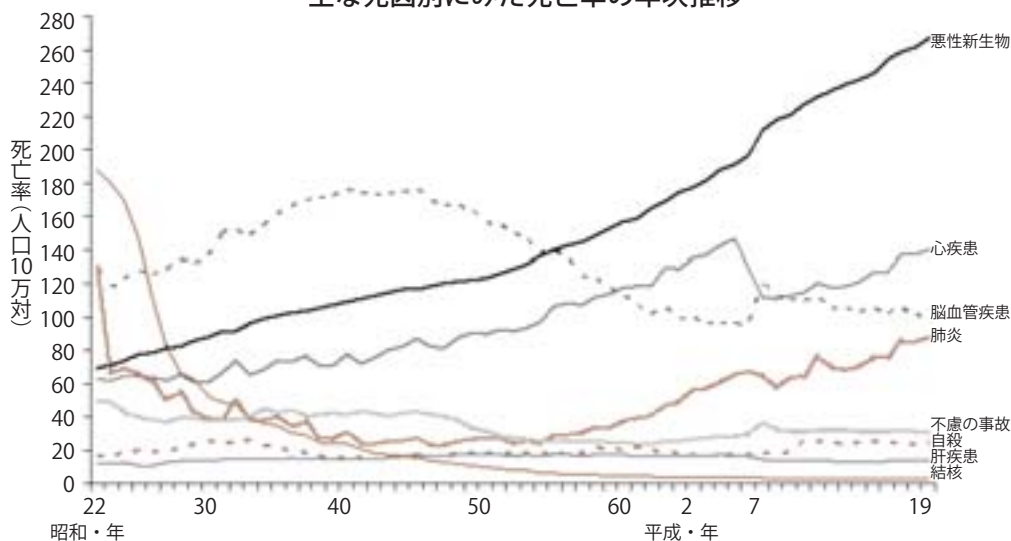
肺炎球菌による肺炎は重症化することがあり、また耐性菌が多く、治療が困難なことがあるので、事前に予防することが大切です。

これには、うがい・手洗い・入浴・運動・日光浴・規則正しい生活・インフルエンザにかからないことが基本的に大切ですが、さらに、肺炎球菌ワクチンの接種は予防上、非常に重要であることが分かっています。

◎特徴

- ・年中いつでも接種することができます。
- ・肺炎球菌による感染症の約80%に効果が期待されます。
- ・通常1回の接種で約5年間ほど免疫が持続すると言われています。
- ・接種後副反応（注射部位の腫れ・痛み、軽い熱）が見られる方がいますが、2～3日で治まります。
- ・インフルエンザ予防接種との併用は問題ありません。むしろ、肺炎の危険を減らすために両方接種した方が効果的です。

主な死因別にみた死亡率の年次推移



注：1）平成6・7年の心疾患の低下は、死亡診断書（死体検案書）（平成7年1月施行）において「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」という注意書きの施行前からの周知の影響によるものと考えられる。
2）平成7年の脳血管疾患の上昇の主な要因はICD-10（平成7年1月適用）による原死因選択ルールの特長によるものと考えられる。

▲平成19年人口動態統計月報年計（概数）の概況より

◎注意

- ・すべての肺炎を予防するものではありません。しかし、肺炎になってしまった場合でも、症状の軽減効果が期待できます。
- ・接種後、免疫ができるまでに1カ月程度かかります。
- ・現在日本では、接種は1回までで再接種はできません。
- ※注射部の痛みなどの副反応が強く出ることがあるため、このワクチンの成分が原因で肺炎にかかることはありません。

当ワクチンの接種につきましては、最寄りの病院やかかりつけの医師によくご相談ください。

問い合わせ先

役場 保険医療課
内線170